

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立福生高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
 - (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員2名 計3名
 - (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、学年主任、計7名
 - (4) 協議委員の構成
PTA会長1名、近隣中学校長1名、地域代表2名、福生市教育委員会1名、
特別養護老人ホーム施設長1名、若者サポートセンター1名
- 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年5月16日（金曜）内部委員7名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和7年10月17日（金曜）内部委員7名、協議委員5名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和8年1月30日（金曜）内部委員7名、協議委員5名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年5月16日（金曜）内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年10月17日（金曜）内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和8年1月31日（金曜）内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象： 55人	回収： 53人	回収率： 92%
・12月	保護者全員	対象： 55人	回収： 16人	回収率： 30%
・12月	地域・住民	対象： 150人	回収： 51人	回収率： 34%
・12月	教職員	対象： 8人	回収： 8人	回収率： 100%

- (3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
- ・平成30年度以降は「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目についても設定する。

- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足している。
- ・生活指導は、保護者から80%以上の支持率を得ている。
- ・大部分の保護者は、個別の事情に応じた指導に満足している。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。

- ・生活指導は、特に毎日の生活習慣の確立、生活をする上での目的意識を明確にもたせるとともに、あらゆる機会にコミュニケーションをつける習慣、マナー意識を持たせる指導が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに地域に密着した学校作りが必要である。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。
- ・学期ごとに校内研修会を実施する。

(2) 学習指導

- ・生徒の実情や生徒の要望を反映させた教材づくり等が必要である。

(3) 特別活動

- ・ボランティア活動など、地域に貢献できる活動を行うことが大切である。

(4) 生活指導

- ・挨拶やマナーなど、毎日の高校生活で取り入れていくことが大切である。

(5) 進路指導

- ・入学時（1年次）より、計画的なキャリア教育を実施していくことが大事である。

(6) 健康・安全

- ・生徒一人一人の個性に合わせたアドバイスや個別指導が特に大切である。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	1	0	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】 定時制である関係上、企画調整会議が13時頃となり、外部委員へ参加依頼するのが難しかった。企画調整会議は毎回生徒の個人情報に関する内容も多く含まれるため、今後の協議委員の参加方法の工夫が課題である。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。